

令和6年度

地域福祉事業配分金 事業報告

(令和5年度募金実績)

朝来市社会福祉協議会

【ほっとコミュニケーション事業】

昨年に引き続き、職員が民生委員と対象者宅を訪問、困りごとや課題等を把握し、必要があればその課題に対する支援などを関係者と一緒に調整会議していく事業をおこなった。

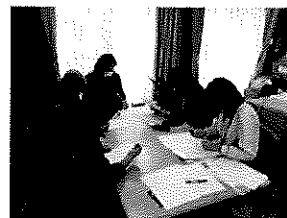
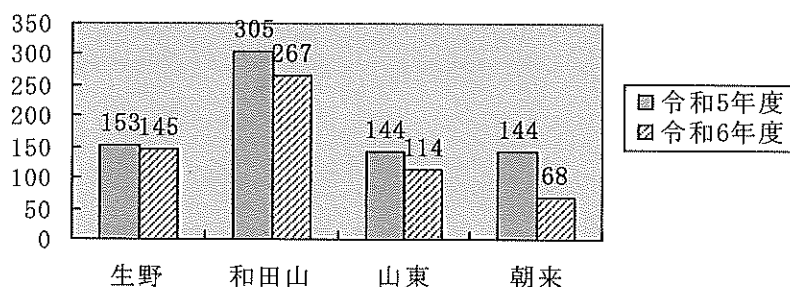
●対象者 見守りが必要な高齢者独居・高齢者夫婦・障がい者世帯等

●内 容 誕生月に地域センター職員が、民生委員と共に対象者宅を訪問。困りごとや課題を把握し、支援や情報提供を行った。すぐに対応が難しく、地域の方との検討が必要なケースでは民生委員や社協委員、ケアマネなどの関係者と調整会議を行い、可能な支援について協議した。

令和6年度地区別対象者人数

地区	生野	和田山	山東	朝来	合計
対象者数	145人	267人	114人	68人	594人
調整会議数	4回	3回	0回	0回	7回
随時支援数	7回	66回	27回	10回	110回

地区別対象者年次推移



●総事業費 3,380,000 円

●財源 共同募金配分金

●効果と課題

- ・訪問が良い機会となり、大小様々な相談や質問をお受けすることが出来た。中には調整会議の結果を基に、ボランティアコーディネートに結びついた事例もあった。
- ・このスタイルのほっとコミュニケーション事業も2年目となり、民生委員とのつながりが深くなり、当事業以外にも相談や問い合わせをよくいただくようになった。
- ・次年度は、話し相手のボランティア育成などにも取り組み、ニーズに対してより対応できるようにしたい。

【福祉教育活動助成事業】

赤い羽根共同募金の配分事業として、市内の学校、子ども園・保育園へ助成事業の案内を行い、活動の相談や申請校への助成金交付等の事務を通して福祉教育活動の推進を図った。また福祉学習の講師派遣を行い「ふだんの暮らし」の中にどのような福祉的課題があるかを学び、考え行動するきっかけづくりを行った。

〈実績〉

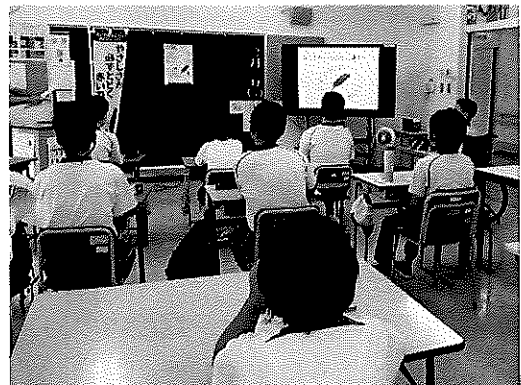
	令和6年度	令和5年度
申請校・園	14校・6園	12校・3園
助成額	614,000 円	524,979 円

主な取り組み活動	・共同募金の使いみち、募金の方法を学ぶ活動 ・地域の福祉施設との交流 ・高齢者の持つ技術や伝統を学ぶ活動 ・車いす体験、高齢者疑似体験、手話、点字等の福祉学習	・地域の福祉施設との交流 ・地域の高齢者との交流 ・外部講師を招いて手話・車いす・高齢者疑似体験等の福祉体験を行う ・共同募金学習と街頭募金への参加 ・プルタブ・古切手等の収集活動
講師派遣回数	9回 ・和田山高等学校（車いす体験学習） ・梁瀬中学校（共同募金・車いす体験学習） ・梁瀬小学校（車いす・高齢者疑似体験学習） ・大蔵小学校（車いす・高齢者疑似体験学習） ・枚田小学校（車いす体験学） ・和田山特別支援学校（共同募金学習） ・生野こども園（車いす体験学習） ・糸井こども園（車いす体験学習）	8回 ・和田山高等学校（車いす・アイマスク・松葉杖体験、フードドライブ学習） ・梁瀬中学校（車いす体験） ・大蔵小学校（車いす・高齢者疑似体験） ・梁瀬小学校（車いす・高齢者疑似体験） ・枚田小学校（車いす体験） ・糸井こども園（車いす体験）

〈成果〉

・赤い羽根共同募金学習に取り組まれる学校が2校あり、募金のしくみや、地域のために役立っていることを直接伝えることができた。子供たちが共同募金を知るとは、福祉に興味をもつきっかけとなり、それが親へと伝わって多世代への福祉の理解につながるのではないかと期待する。

・助成事業をきっかけに、手話体験や車いす体験に取り組むこども園があり、初めて見る触る体験を通して福祉を身近に感じてもらうことができた。



【生活困窮者支援】

生活に困窮した世帯等からの困窮相談を受け、各関係機関との連携を通じての支援や必要な資金貸付、善意銀行での金銭預託や物品預託により対象世帯等へ食糧や物資を提供した。

○食糧支援等実績

地域別	件数	内 容
生 野	4	（食 糧）米、インスタント食品、レトルト食品、缶詰、乾麺、菓子パン、卵飲料他 （生活用品・日用品）衣類、寝具、カセットボンベ、洗剤、ティッシュ、歯磨きセット、シャンプー等
和田山	18	
山 東	4	

朝 来	12	(貸出し)洗濯機、炊飯器、飯盒炊飯、カセットコンロ
計	38	

実例：母子世帯への食糧支援：母子福祉担当課より生活に必要な必需品の貸与の要請があり
担当者が訪問するとネグレクト（養育放棄）の形跡が疑われ、子も十分な食糧の提供
を受けていない様子があり食糧支援を行った。

○自家用車等への燃料支援

地域別	件数	内 容
和田山	3	就職活動支援、仕事へ出勤支援
計	3	

○法外援護支援資金・生活福祉資金への資金貸付

地域別	件数	ケース内容
和田山	1	法外援護支援資金にて就職支度準備金
計	1	

○関係機関等との連携

関係機関名	主な対象世帯
市社会福祉課	生活困窮世帯全般
市子育て支援課	母子世帯、多世代同居世帯など
高齢者相談センター	高齢夫婦世帯、高齢独居世帯、多世代同居世帯など
各介護保険事業所	高齢夫婦世帯、高齢独居世帯、多世代同居世帯など

【広報・ホームページ】

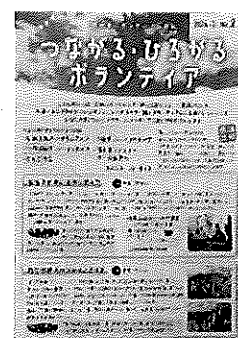
●広報誌「社協だよりあさご」の発行内容

年6回発行し、市内全戸・関係機関等に配布。令和6年度は社協事業の改革に伴う報告に併せて、施設や地域の現状を伝えることで、本会事業や地域福祉への理解を深めていただけるよう努めた。

- ① 社協の施設紹介では、施設内の出来事や空き情報を定期的に伝えることで身近に感じていただくように工夫した。
- ② 他事業所のフードドライブの取り組み、他団体の説明会案内等、他団体の取り組みを載せることでつながりを広げることもできた。
- ③ ボランティアの活動紹介、ボランティアの受賞紹介を掲載することで活動を称え掲載グループを応援した。
- ④ “つながる・ひろがるボランティア”チラシの発行朝来市ボランティア市民活動センター運営委員会でボランティアの啓蒙活動として広報誌に折り込みチラシを入れることになり、チラシに掲載されたグループから喜びの声があった。

⑤ ホームページ

オンライン申請の利用者が多くなり、申請者の8割がオンライン申請を利用されている。ブログの掲載頻度が少ないのが課題。



⑥ 「ミニデイ・ぷちサロン交流掲示板」グループ LINE の運用

ミニデイグループから、このようなことで盛り上がったと情報発信されている。また、LINEを通じて、社協に写真データを送信することで報告書の簡素化にもつながった。今後は、助成団体の助成情報等の有益な情報発信も行い、グループ数の増加につなげていきたい。
(19名のボランティア代表者が登録)

【地域応援助成事業】

地域応援助成事業、お出かけ助成事業は、どちらも赤い羽根共同募金の配分金を財源として実施しています。

●地域応援助成事業（対象：区）

地域内での支えあい、助けあい体制づくりを推進し、わがまちで安心して暮らす地域をつくることを目的として事業を行った。

	選べるコース	助成上限額	内 容
「年度内3回まで」	①食堂コース	食堂事業1回につき、 60名以上 30,000円 40名以上 60名未満 25,000円 20名以上 40名未満 20,000円	地域で食堂事業を開催し、世代間交流の機会を増やすことにより、地域の支えあい・助けあいづくりを推進していくことを目的としたコース
	②食堂と福祉マップづくりコース	①コースの助成額に プラス 10,000円	①に加え、福祉マップを作成し、区内で情報を共有するコース（このコースは、複数回の助成不可）
	③地区合同開催コース	①コースの助成額に プラス 20,000円	隣接区が合同で食堂事業を開催するコース

○実施区一覧表

	申請区	実施回数（回）	助成額
和田山	和田山新町区	1	30,000円
	竹田新町区	3	70,000円
	西土田区	3	70,000円
山東	早田区	3	65,000円
	田中区	1	20,000円
朝来	納座区	1	20,000円
	新井1区	1	20,000円
	新井2区	1	25,000円
合 計		14	320,000円

○成果（地域応援助成事業報告書より抜粋）

- ・昨年より、若い世代の転入やUターン等があり世代間交流のために実施。組長の奥様に力を発揮してもらいカレーライスとサラダを作り、「おいしい！」と子供から高齢者まで喜んでいただいた。ゲームやふれあい講師にもお世話になり楽しい時間を過ごした。同じ釜の飯を食べ、一緒になってトランプや歌を歌ったことは一層お互いの距離が近くなったことを感じ、日ごろからの活発なつながりの効果だと感じた。

○課題・今後の取り組み

- ・地域のつながりや交流の場を持つ機会を作りたいと考えたり、その必要性を感じている区に対し、本事業を知っていただきやってみようと思ってもらえるような必要な情報を提供することや、実施に向けて支援していくことで、本事業の助成金を使っていただく区を増やしていきたい。

●お出かけ助成事業（対象：ミニデイ・ぷちサロン）

生きがいをづくりや介護予防活動として交流を楽しむ団体に、外出行事に使用するマイクロバス等の使用料金の負担を軽減するために助成した。また、普段交流が少ない一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦等の社会参加を促進するために下記メニューのとおり追加助成した。

助成メニュー

助成額上限	30,000 円
助成回数	年度内 1 グループ 3 回まで
追加助成	普段交流が少ない高齢者等の参加により、1 名するごとにプラス 3,000 円を追加助成（最大追加助成 5 名まで）

○実施団体一覧表

申請団体		実施回数（回）	助成額
ぷちサロン	和田山本町区	2	90,000 円
	ささゆり	1	30,000 円
ミニデイ	高田ときわ会	2	78,000 円
	三保二葉会	1	45,000 円
合 計		6	243,000 円

○成果（お出かけ助成事業報告書より抜粋）

- ・小型バスで鳥取方面にお出かけされたミニデイのグループ。食事や砂の美術館を鑑賞するなど、高齢で普段外出をする機会が少ない方も顔なじみのメンバーと安心してお出かけを楽しまれた。

○課題・今後の取り組み

- ・ミニデイやぷちサロン等のつどいの場に限定された助成対象だが、対象についての問合せが数件あり、中には障害者（児）が対象のボランティアグループもあったことから、対象の見直しや、分かりやすく情報提供することが必要と感じた。

●ぷちサロン活動応援助成事業

ぷちサロン活動を実施するグループで、活動する地域住民が5名以上あり、そのうち65歳以上の地域住民が半数以上を占めているグループを対象に、1回あたり2,000円を上限に100円単位で年度内12回を上限として助成した。

前年度に比べ、グループ数は変わらないものの、活動回数、参加者数ともに増加しておりコロナで外出を控えていた方など外に出るきっかけ作りができた。

＜活動状況＞ 7.3.20 現在

	令和5年度	令和6年度
活動グループ数	72 グループ	73 グループ
活動回数	561	600
参加者数 (内 65 歳以上)	5,479 人 (5,218 人)	5,780 人 (5,433 人)

＜地域別内訳＞ 7.3.20 現在

	生野	和田山	山東	朝来	計
活動グループ数	11	37	14	11	73
活動回数	96	314	104	86	600

＜課題と今後の取組み＞

- ・地域との関わりの中からぷちサロン活動の発掘や活動開始の補助等を行い、気軽に集える場を増やしていく。
- ・ぷちサロンからつどいの場への移行の促進を行い、活動回数の増加や計画的に多様な活動内容で仲間づくりや生きがいづくりを行えるよう支援を行っていく必要がある。
- ・申請者と社協職員のより近い関係性の構築と、ぷちサロン内や地域の課題やニーズに対し、相談や連絡を行いやすい環境づくりをすすめる。

